

小売業・社会福祉施設・飲食店などの「第3次産業」の皆さまへ

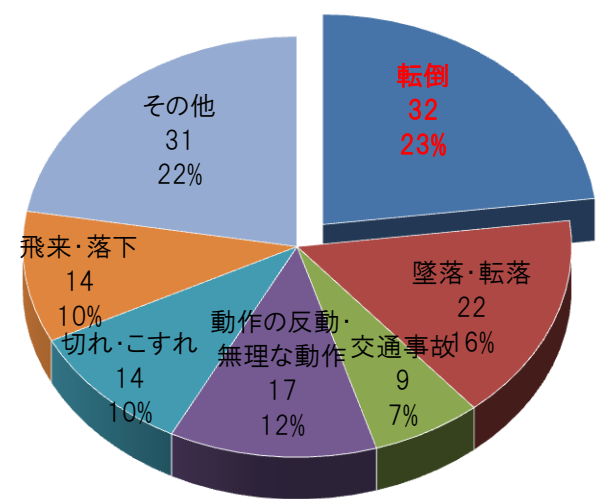
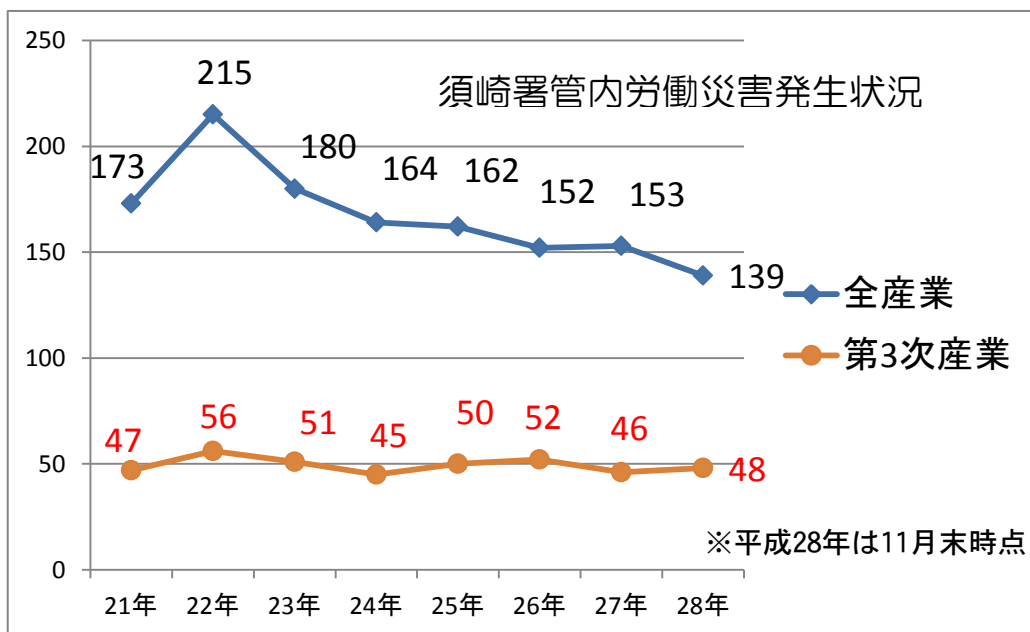
転倒による事故・災害を撲滅しましょう！

● スーパーや病院、介護施設などで…転倒災害が増加中！

須崎労働基準監督署の管内の事業場では、休業4日以上大きな労働災害が11月末で139件発生しており、昨年同時期と比較すると10件も増加しています。

特に、商業において20件、保健衛生業において15件も発生するなど、第3次産業における労働災害が増加しています。

事故の内容としては、転倒による災害が増加しており、第3次産業における転倒災害は昨年は9件であったものが、今年すでに19件も転倒による大きな労働災害が発生しています。



■事故の型別死傷者数 (平成28年11月末)

● 安全の担当者を配置して、職場での安全活動を活性化させましょう！

休業4日以上労働災害は、全国で年間約12万件近くもあり、このうち、4割以上の労働災害は、小売業、社会福祉施設、飲食店などの「第3次産業」で発生しています。しかしながら、これらの業種のほとんどは、安全管理者や安全衛生推進者の選任が法律で義務付けられておらず、他業種と比べて安全活動が活発ではない傾向があります。

・労働者数が10人以上で安全管理者や安全衛生推進者の選任が義務付けられていないときは、安全活動を推進するための**旗振り役**として「安全の担当者」＝「安全推進者」を配置しましょう！

<安全推進者を配置するときのポイント>

- 1 安全推進者は事業場ごとに**1人以上**配置します。
- 2 安全推進者を配置したときは、**氏名**を作業場に掲示するなどにより周知します。
- 3 事業主は安全推進者が活動しやすいように、**必要な権限を与えて**、能力向上にも配慮します。

安全推進者を中心に次のような安全活動を展開しましょう

- ◆**4S活動** = 災害の原因を取り除く
4Sとは「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」のことで、これらを日常的な活動として行うのが4S活動です。
- ◆**KY活動** = 潜んでいる危険を見つける
KYとは「危険予知」のことです。業務を開始する前に職場で「どんな危険が潜んでいるか」を話し合い、危険なポイントの対策を決め、作業のときは一人ひとりが「指差し呼称」をして行動確認します。
- ◆**危険の「見える化」** = 危険を認識する
危険の「見える化」は、職場の危険を可視化(=見える化)し、従業員全員で共有することです。
- ◆**安全教育・研修** = 正しい作業方法を学ぶ
特に、はじめて職場についての従業員には雇入れ時に安全教育を行う必要があります。
- ◆**安全意識の啓発** = 全員参加
従業員一人ひとりの安全意識を高めるために、朝礼時の安全指示や、「安全で安心な職場づくり」の表明、ポスター、チラシなどによる周知等が効果的です。



●転倒災害を防止するために…危険の認識と対策を！

1. 危険な場所や環境を確認し、改善しよう！

- 作業場所や通路に段差や凹凸、継ぎ目がある。
- 床面がぬれていた、油や砂、粉などがこぼれている。
- 作業場所周辺が散らかっていたり、障害物が多い。作業スペースが狭い。
- 通路に障害物が置かれていたり、電源コードが通路を横断している。
- 周囲に照明がない。照明が暗くて足元が見づらい。





- スロープにして段差や凹凸を解消！
- こぼした水や油などはすぐ掃除！滑りにくい履物で作業！
- 日頃から整理整頓！作業時は不要な物を移動させて、スペースをしっかりと確保！
- よく通る場所には物を置かない！電源コードは通路端に沿わせたり、ケーブルカバーで保護！
- 労働者に照明器具を配布したり、照明を交換！

2. 危険な行動や状況を認識し、注意して行動しよう！

- 作業場所や通路を走ったり、急ぎ足で歩いている。
- 両手で荷物を抱え、足元が見えなくなっている。
- 書類を見たり、携帯電話を使いながら、人と話しながら歩いている。
- 日頃、あまり運動していない。長時間座ったり、同じ姿勢で仕事をしている。

- 急がず、走らず、足元に注意して慎重に行動！
- 大きな荷物を運ぶときは、台車などを使用！
- 階段や障害物の多い場所では、書類を見たり携帯電話を使いながら歩かない！
- 日頃からストレッチや適度な運動を取り入れ、転倒予防のための体力作りを！

●ちょっと転んだだけ・・・で実際にこんな大けがに！

業種・職種	発生状況		再発防止のポイント
小売業・販売員	店内を掃除機で清掃中、掃除機のコードに足を引っかけて転倒した。		床面のコードは、転倒災害を引き起こす大きな要因です。コードなどはできる限り通路脇や部屋の隅などに整理したり、ケーブルカバーなどで固定しましょう。掃除機などを使うときは、ケーブルを長く出し過ぎないようにするなどの工夫をしましょう。
年代・性別			
60代・女性			
怪我の程度			
骨折・休業2か月			
業種・職種	店内調理場を移動していたところ、清掃後でぬれていた床で足を滑らせ転倒した。		油などをこぼしたあとや、清掃後のぬれた床は、特に現場を見ていない人にとって危険な場所になります。水などが残らないようしっかりと拭き取るとともに、ミニスタンドを立てて注意を促すなど工夫をしましょう。また、日頃油などを使う場所では、滑りにくい靴を履くなどの対策をしましょう。
年代・性別			
50代・女性			
怪我の程度			
骨折・休業1か月			
業種・職種	病棟を移動中、乗ろうとしていたエレベーターのドアが閉まりかけたため、駆け込もうと小走りになったところ、足がもつれて転倒した。		エレベーター、電車などへの駆け込みは、転倒など様々な災害につながる上、自分だけでなく周囲の人にけがをさせることにもなりかねません。日頃から心と時間に余裕を持って行動しましょう。また、急いでいるときでも足元や周囲には注意を払って行動しましょう。
年代・性別			
50代・女性			
怪我の程度			
脱臼・休業3か月			
業種・職種	駐車場の清掃中に、車止めに足を取られて転倒した。		地面や床面と同系色の障害物は、時間帯や天候によって、非常に見づらくなります。十分な明るさを確保して周囲を見やすくしましょう。また、車止めなどであれば、色を塗って見やすくするなどの工夫も良いでしょう。
年代・性別			
60代・女性			
怪我の程度			
打撲・休業6日			

転倒災害防止対策に活用してください。 ➡ **STOP! 転倒災害** プロジェクト

STOP! 転倒

検索